

団長の独り言

6月2日(日)「本物を目指し」

昨日の土曜は、廃校になった「旧小学校」での稽古。

今でこそ、ここの稽古場は月に2度くらいしか利用していないけれど、去年までは、こちらの施設が劇団ふあんハウスのメインの稽古場だった。

現在、劇団ふあんハウスがメインの稽古場として利用している都心の公共施設は、約6年前、劇団ふあんハウスが動き出した時から約19年間、利用させていただいてきた。

しかし：6年ほど前、諸事情により、その施設での利用をやめる事となり、さあ次メインとなる稽古場はどこにしたらいいやら？と迷っていたところへ、偶然にも「旧小学校」を見つけ、そこが新たな劇団ふあんハウスの拠点となった。

環境は大きく変わったけれど、真剣に芝居創りに取り組み続け、以来6年間、作品創りを行ってきた場所なので、それなりに想い出が詰まっている。お世辞にもキレイとは言えないし、現在メインとして利用している都心の公共施設での稽古場に比べて、部屋はかなり狭いし、トイレもしょぼい。

空調も全くメンテナンスはしていない。しょうがないので、私がたまーにフィルターを外し、校庭で水洗いするって事もやっていたくらい……。

でも、なんだろう？愛着があっても、なんとなく居心地のいい場所でもある。

その稽古場に、17時30分に到着。校門付近の指定場所に車を止め、中庭を通った先はかなり奥にある教室に向かって中庭を歩いていると、発声練習「あの鐘をならすのはあなた」のみんなの歌声が聞こえてきた。夕方の廃校の小学校。

人気(ひとけ)はまったくない。そんな中、校舎に囲まれ中庭に、歌声がこだまする。なんとも不思議な空間。

しばし中庭で歌声を聴いていて、ちょうど終わったところで部屋に入る。

みんな明るく！元気！それが一番。誰も日常での悩み疲れは絶対にあるはずなのに、そんなものは稽古場の外に置き、芝居創りに集中する。和気あいあいの中にも、ピリッとした緊張感のある稽古場。

まずは、今後の劇団ふあんハウスの大まかなスケジュールのお話をする。

詳しい事はまだ言えないのだが、劇団ふあんハウスにとって大きなプロジェクトが動き出そうとしていて、まずはその報告を行うと、ほとんどのメンバー達は顔を輝かせる。

そのプロジェクトの他にも、7月公演以降、ありがたいことに次から次へと、様々な企画が待っている。

どの企画も、劇団ふあんハウスのこれまでの長年の活動に賛同して下さり、「協力しよう！」「一緒にやろう」と言ってくださっているものばかり。

ワクワクするけれど、浮かれているわけにはいかない。「ご期待に応える活動を行う！」という責任がある。

そうなるとメンバー達も、より一層、生半可な気持ちでは携われない。その昔、こういう威勢のいい話をする時、逆に劇団ふあんハウス活動へのモチベーションが下がり、気持が離れてしまう人はいた。

最初は「なんだか楽しそう」「私にも出来るかも？」と思い、参加してくれただけで、「中途半端な気持ちでは出来ない」そんな「劇団の本気」さ

が負担となり、劇団ふあんハウスと、「ほかにやりたい事」を天秤にかけ、この先、「本気」で突き進んでいく「劇団ふあんハウス」に、身を投じる事が出来るのだろうか？と思ひ悩み、ついには去って行ってしまった人は結構いたかなあ……。

出来る事ならば、それらの人達にも、続けてもらえるよう「サークル的」な、ゆるやかな感じの団体にすればいいのかもしれないが……いやいや劇団ふあんハウスはそんな劇団ではない。

そこは、私が26年前に劇団ふあんハウスを立ち上げた時から貫いているポリシーである「熱意とやる気さえあれば、障害があるうがなかるうが本物の芝居が出来る！」という事に、こだわり続けたい。

またこだわり続けてきたからこそ、26年間も勢いを衰えさせることなくやってこれたと思う。

じゃあ「本物の芝居」って何よ？何を持って本物というのか？という事なんだけどね……十数年も前になるかな？元・惑星ピスタチオの創立メンバーの保村大和さん(現在・闘病中)と居酒屋で話をしている時に、「平野さ

んがステージでの挨拶で本物の芝居って言っているのを聴いて、俺は本物の芝居をしているのかな？って自問自答した……みたいな事を、私からしてみたたら、バリバリ「本物の役者」さんが言ったのが、とても衝撃的だった。

その時から、私もあらためて「本物の芝居って何？」みたいなことをつねに考えるようになったが、現時点において、私なりの「本物の芝居」というのは、お客様に楽しんでいただき、「また観たい！」「応援したい！」「元気をなれた！！」「勇気をもらった！」「感動した！」と心から思っていただけのお芝居が、「本物の芝居」って事じゃないのかな？とは思うのだが……うーん……そんなもんじゃないか？

まだまだ「本物の芝居」への追求は続くけれど、これからも様々な山や谷を乗り越えながら、若い頃のように「前のめり」にはならないように気をつけながらも、「熱意」と「やる気」で、「本物の芝居」を目指しますよお。

そのためには、やはり「本気」で「一生懸命」、芝居に取り組まないと出来ないけどね。

応援団の皆様、観客の皆様、そしてメンバーの皆様！これからも、一緒に劇団ふぁんハウスを盛り上げていただければと思います。